



箱根教育 合言葉

箱根を愛し・かしこく・やさしく・たくましく

令和6年1月24日発行

令和7年1月も下旬となりました。時が流れるのがあるという間と感じます。子ども達と令和6年度あと何日かと数えてみました。24日時点で平日クラス保育ができるのが、年長卒園児はあと38日。8日に行われたクラス保育はじめ式では、年長児に年末宿題として出されていた「家で行った手伝い」を聞いてみました。舞台上で一人ずつマイクに向かって発表したのですが…

「わたしは、はしをまいにちならべました」「ぼくは、おふろそうじをしました」等全員が、違う手伝いを発表する姿に年中組は憧れの人を見る表情になっていました。その日年長に触発された年中組は年長児のようにかっこいいクラスになりたいと声を掛け、片付けや挨拶などいつも以上に張り切っていました。年長児は確実に小学校一年生の扉が見え始めました。頼もしいです。



正月あそび (3.4.5 歳児)



地域の方をお招きして、宮城野保育園全体を使って正月あそびを楽しみました。地域の方が作って来てくださったお手玉が人気で（職員も！）、昔とった杵柄でしばらくやってなかったお手玉遊びも「こんな風に遊んだわよ」と昔の歌を歌いながらお手玉を披露してくださいました。大人が笑いながら楽しんでいると、自然と子ども達も集まり、福笑いも凧あげも駒回しもかるたもじっくりとみな笑顔で楽しみました。日本の伝承遊びは、この時期に体験することがとても大事で、大人になって日本の遊びを語れる子に！

ゲームももちろん楽しいですが、大人も子どもも年齢関係なく楽しめる昔から伝わる遊びを大事にしていきたいです。

箱根園ぞい遊び(4. 5歳児)

スノーウエアに毛糸の帽子と雪遊びにピッタリのスタイルでぞい遊びを満喫してきました。年長児は12月のオーブンニングセレモニーに参加した経験からぞい遊びはお手の物で、初めから友達と連結して楽しんでいました。ゆり組は実際に滑る頂上に登ってみると…急勾配にびっくりしてひとまずぞい滑りより雪山に行き、雪玉づくりで心を整えてから再チャレンジする姿が見られました。怖いという気持ちと楽しそうな友達の姿を見てやってみたい気持ちで葛藤している姿も成長を感じました。箱根園のスタッフの皆さんに「いっしょにすべろうよ」と子ども達から誘い、一緒に楽しんだり、雪合戦をしたいとお兄さんお姉さんとも雪遊びを堪能しました。おいしいお弁当タイム、水族館、抱っこして zoo 体験もさせてもらい、保育園ではできない体験を行えて大興奮の一日となりました。年長組は連日の弁当作りや身支度等ご協力ありがとうございました。友達と体験したことは子ども達の心にずっと残っていくでしょう。



5歳児交流三回目（湯本幼児学園にて）

箱根全山の年長児が集まり、園が混ざり合ってグループを編成し、一日を通して一緒に遊びました。この時期になると子ども達は、自分の園にはない玩具に興味深々になりながらも、友達のしていることに興味をもちはじめ、勇気をだして遊びに誘ったり仲間に入れて自分から入っていったりと頼もしい姿を沢山見る事ができました。

グループで集まるときも保育者の指示ではなく、見通しをもって呼びかけ、自分たちで行動する姿もありました。4園4色でのリレーでは、アンカーの選手達が転んだ友達のことが気になって走りが止まる瞬間がありました。友達の気持ちに思いを馳せる姿に感動しました。

